

3 課外活動

(1) サークルへの加入

サークル加入の割合は、2年前の調査とほぼ同様の傾向にあります。
 全体の3割以上の学生が、学内の体育系サークルに加入しています。

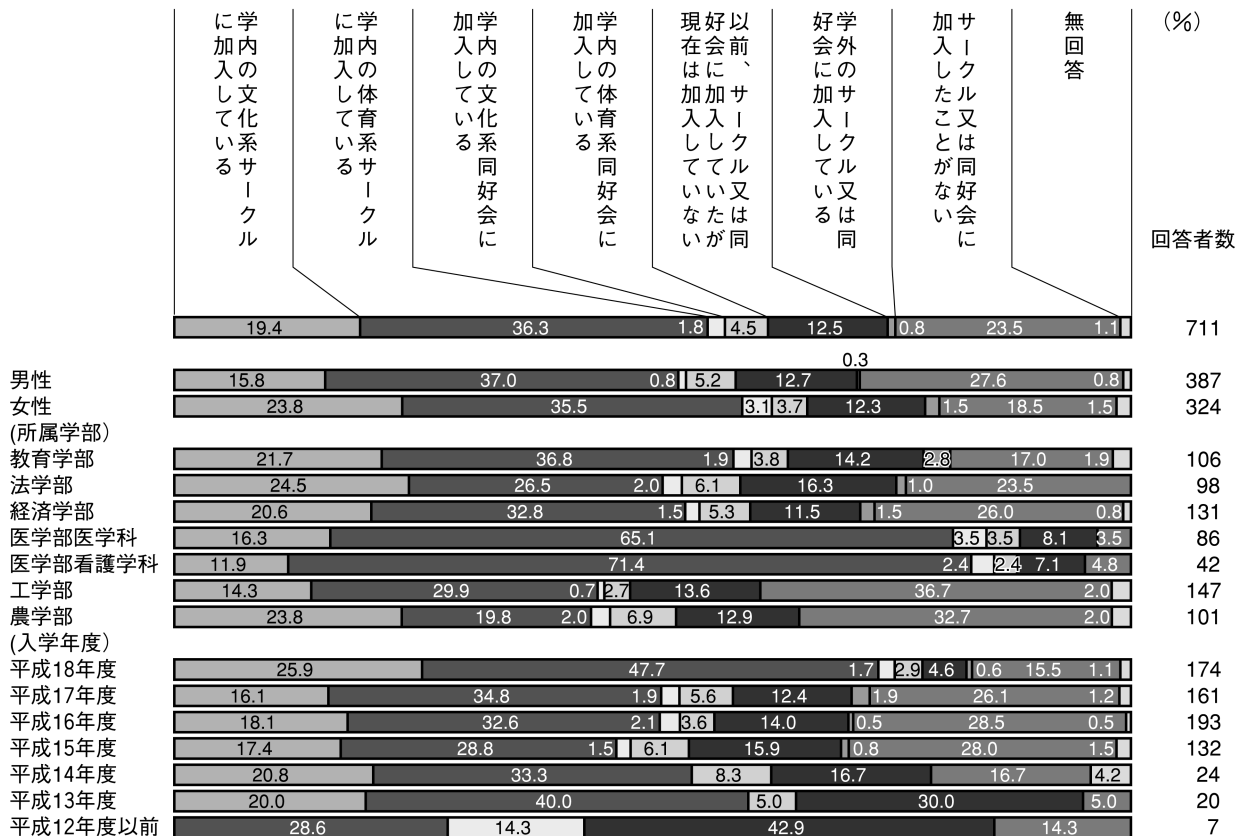
体育系サークルは、どの学部/学科の学生も20%以上が加入しており、特に、医学部医学科では65.1%、医学部看護学科では71.4%と、全学部/学科中最も高い加入率を示しています。

また、サークルや同好会に加入したことがない学生は、全体で23.5%となっています。学部別では、工学部(36.7%)、農学部(32.7%)、経済学部(26.0%)、法学部(23.5%)の学生がサークルや同好会に加入したことがなく、医学部や教育学部では、学生の多くがサークルや同好会に加入していることと対照的です。また、加入したことがない学生が男性では27.6%に対して、女性では18.5%にとどまることも特徴的です。

サークルに加入したことがない学生の理由としては、「通学やキャンパス移動などの時間的な理由」、「自由時間は趣味に当てたい」、「アルバイトがある」などを挙げています。

〈図 54〉 問 27 あなたはサークル又は同好会に加入していますか。

〔複数のサークル又は同好会に加入している人は、主として活動しているものについて回答してください。〕



(2) サークル加入の動機 (無回答除く)

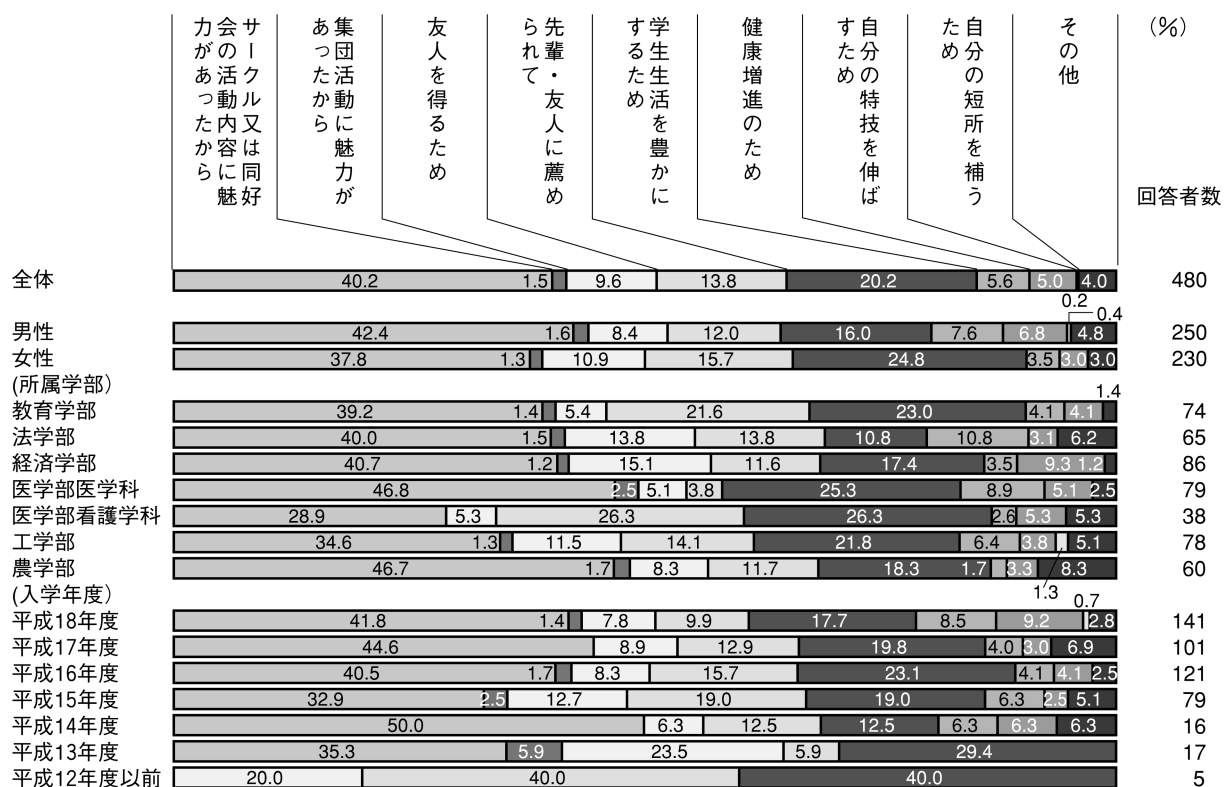
4割以上の学生が、サークルの活動内容に魅力を感じて加入しています。
 学生生活を豊かにするために加入する学生も、わずかですが増加しています。

体育系サークルへの加入が多い割には、「集団活動に魅力があった」(1.5%)、「健康増進のため」(5.6%)といった動機は低率です。また、「サークルの活動内容に魅力があった」という動機が、4割(40.2%)を超えています。

加入の動機では、医学部医学科、農学部、経済学部、法学部の順に、「活動内容に魅力があったから」という動機が4割以上です。

〈図 55〉 問 28 あなたがサークル又は同好会に加入した動機は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

[現在加入している人のみ回答してください。]



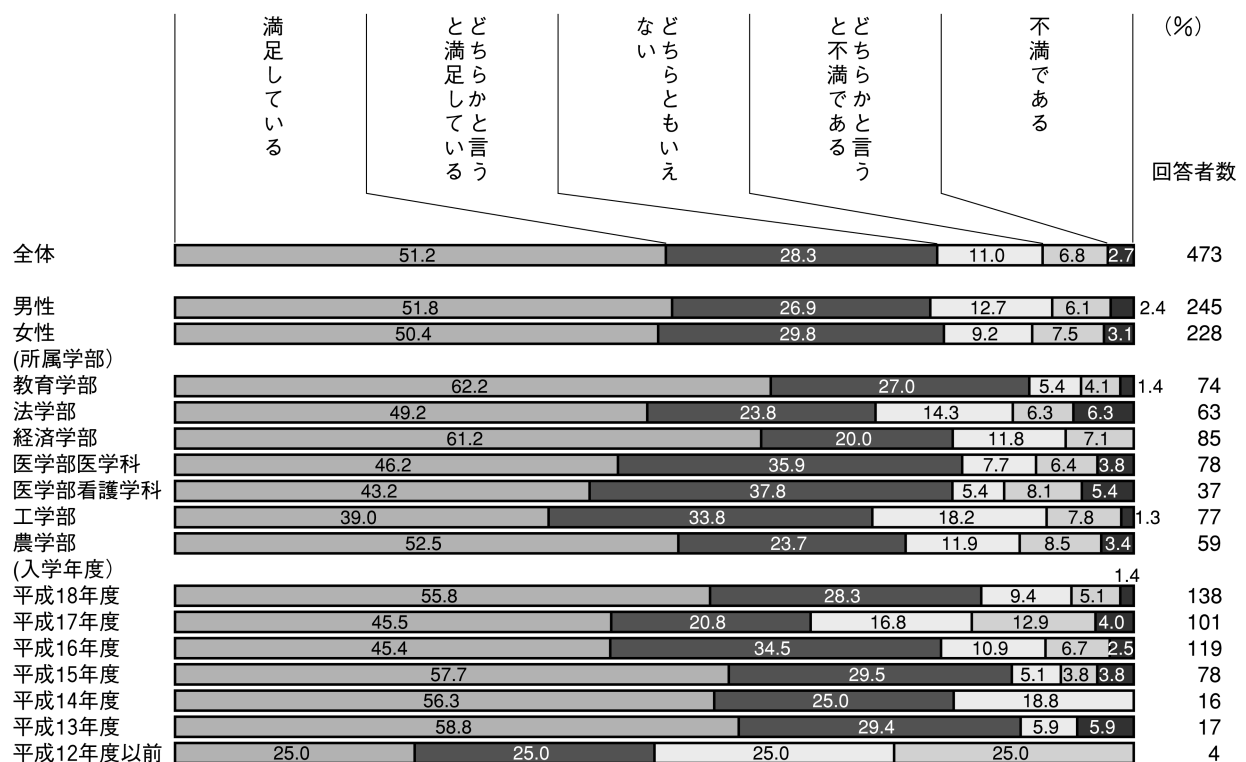
(3) サークルの感想（無回答除く）

各サークルに参加している学生のうち、「満足」、「どちらかと言うと満足」を合わせると7割以上です。

各学部とも、7割以上の学生が満足、どちらかと言うと満足と答えています。
男女別においても、同様の傾向が伺えます。

〈図 56〉 問 29 サークル又は同好会に参加してどのような感想を持っていますか。

[現在加入している人のみ回答してください。]



(4) 学業との両立（無回答除く）

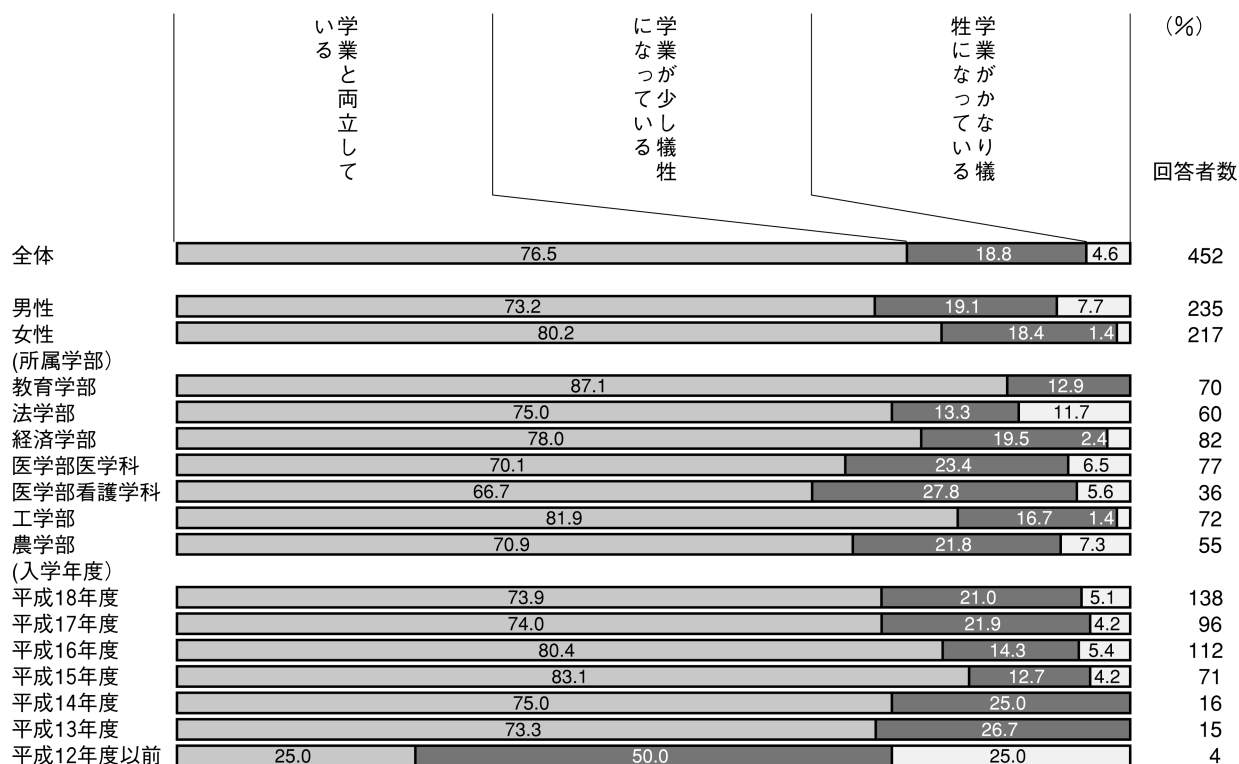
全体で7割以上の学生が、学業とサークル活動を両立させています。
 「学業がかなり犠牲になっている」と答えた学生は、2年前の調査より減少しています。

男女別では、女性の方が、両立させている（80.2％）と答えている率が高くなっています。

学部別では、教育学部（87.1％）、工学部（81.9％）の8割を超える学部と、医学部看護学科（66.7％）が、他学部比べてやや低率です。

〈図 57〉 問 30 あなたはサークル又は同好会活動と学業を両立していますか。

〔現在加入している人のみ回答してください。〕



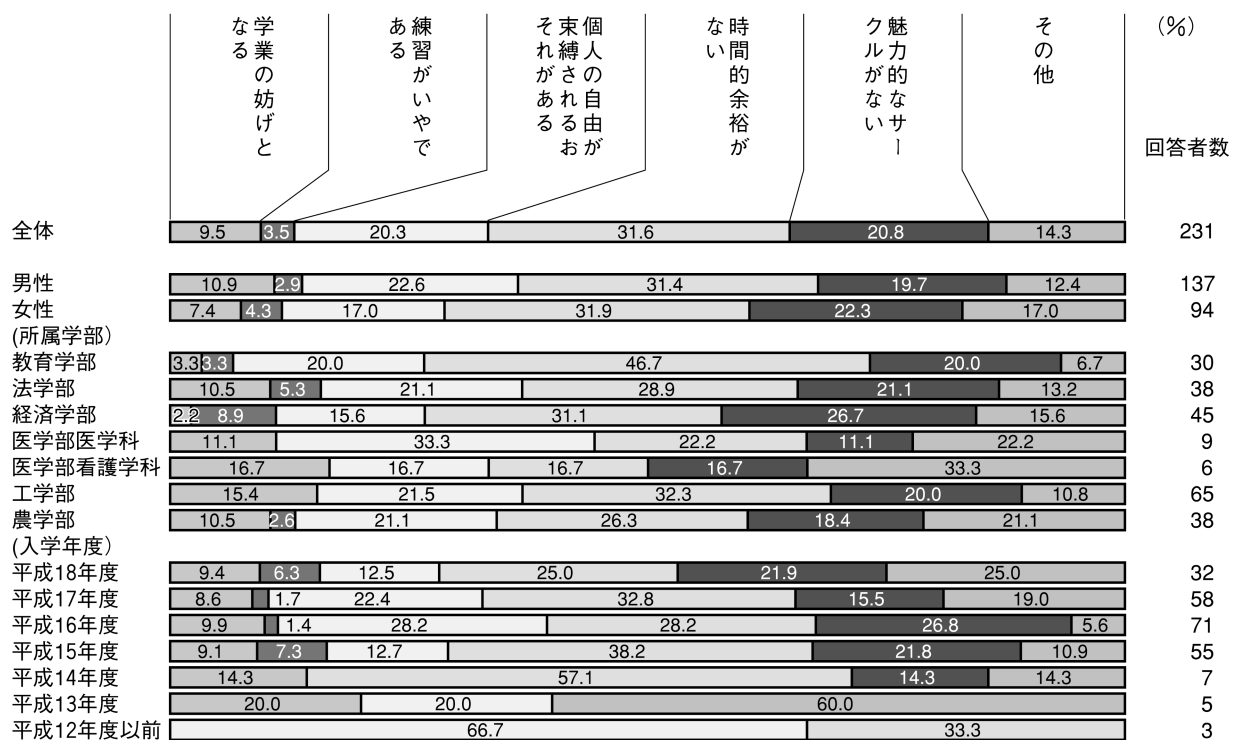
(5) サークルに加入しない理由（無回答除く）

「時間的余裕がない」、「魅力的なサークルがない」、「個人の自由が束縛される」が、上位を占める理由です。この傾向は、2年前の調査と同様です。

「時間的余裕がない」、「魅力的なサークルがない」、「個人の自由が束縛される」が、上位を占める理由です。2年前の調査と同様の傾向にあります。

〈図 58〉 問 31 あなたがサークル又は同好会に加入していない理由は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

〔現在加入していない人のみ回答してください。〕

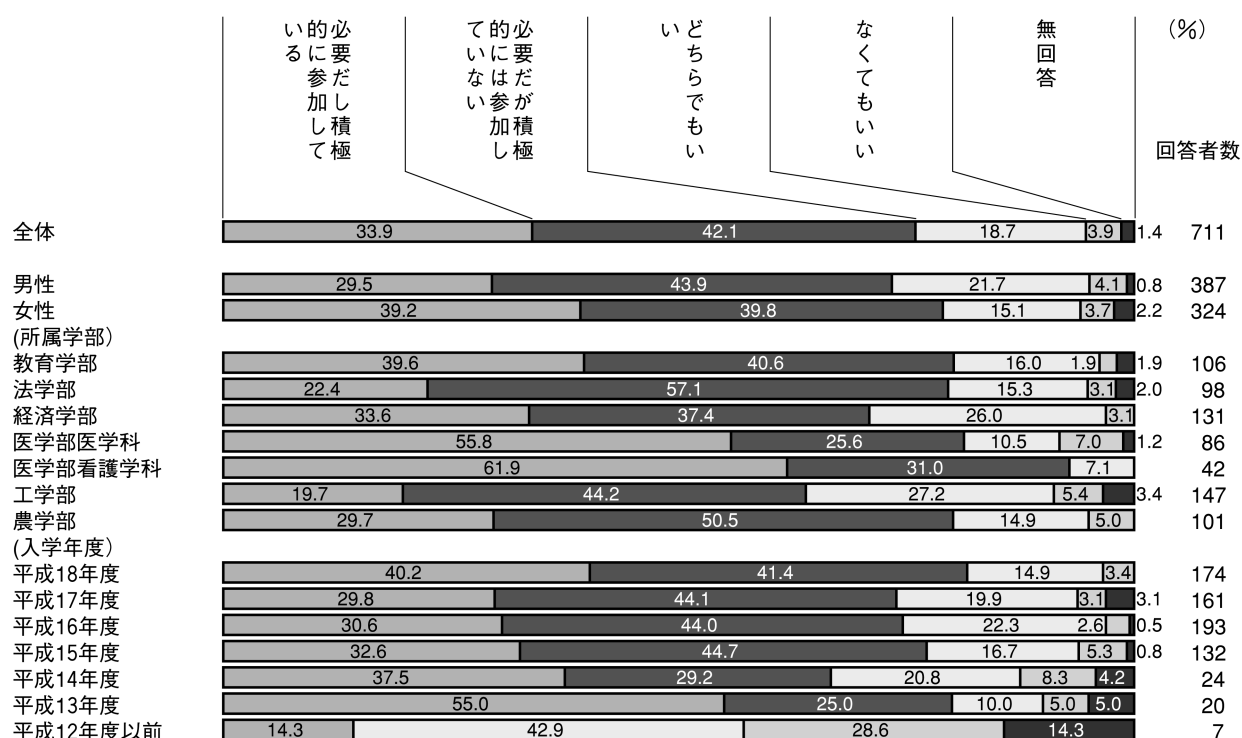


(6) 新入生歓迎行事、大学祭等の学生行事

全体の7割以上の学生が、必要だと考えています。
積極的に参加する学生は、3割以上です。

積極的に参加している学生が、医学部医学科（55.8%）、看護学科（61.9%）に対して、工学部では、19.7%と差が見られます。また、全体で、「なくてもいい」と答えているのは3.9%で、2年前の調査より減少しています。

〈図 59〉 問 32 新入生歓迎行事や大学祭など学生行事についてどのように考えていますか。



4. 就職

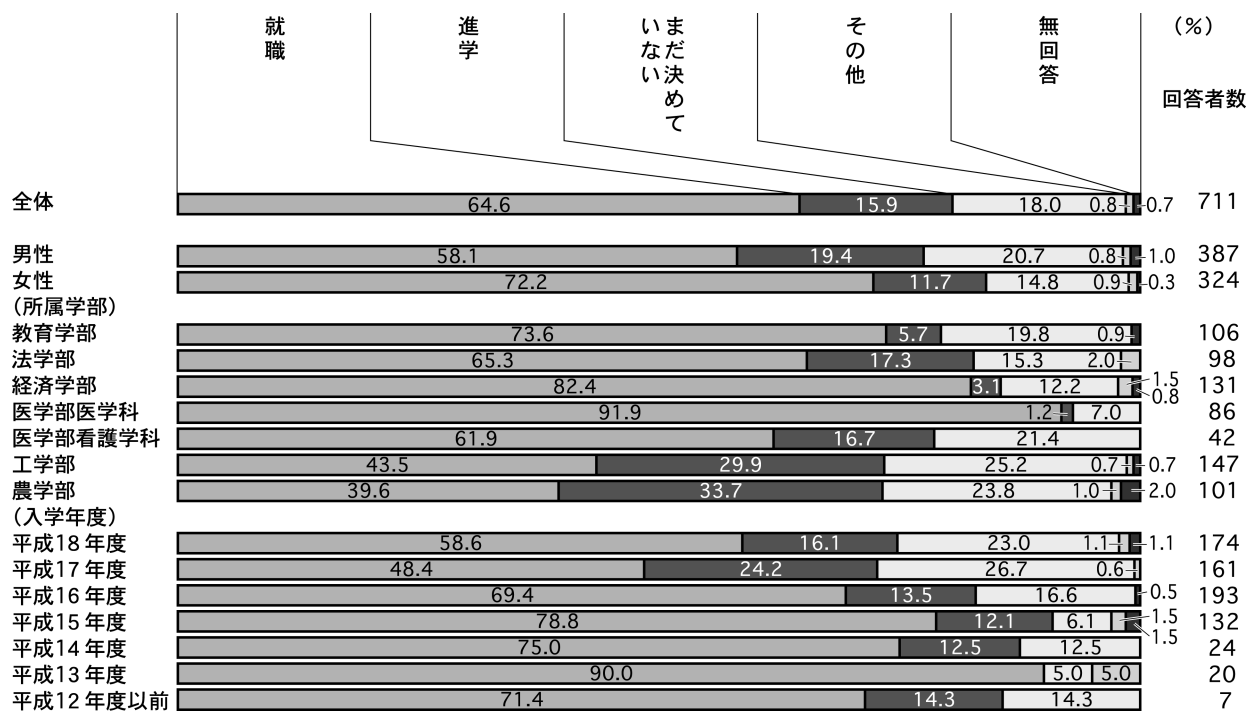
(1) 卒業後の進路

進学を希望する学生は、全体で16%となっている。

全体の進学希望が、年々少しずつ増えてきています。女子学生より男子学生のほうが進学希望が多いのは、例年と同様です。学部別では、工学部、農学部が3割程度で最も多く、この傾向も変わっていません。

前回の調査では、法科大学院設立の影響で、法学部の進学希望が倍増しましたが、今回も2割弱と、ほぼ同様な結果が得られています。今回初めて調査した医学部看護学科では、2割弱の進学希望があることが分かりました。

〈図 60〉 問 33 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。



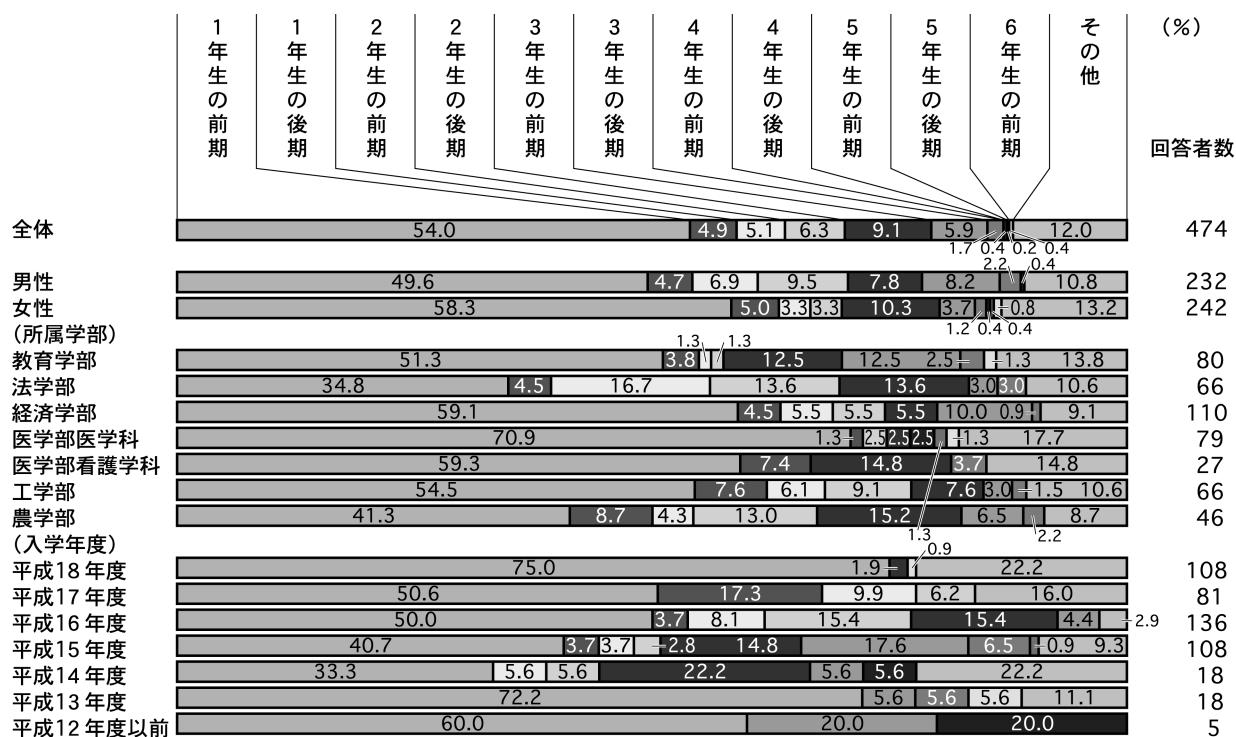
(2) 就職を考え始めた時期

就職希望の学生の半数は、1年生の時に既に就職することを決めている。

例年、1年生前期から就職しようと考えている学生が最も多く、女子学生の方がその傾向が強い
です。学部別では、医学部が早めを決めていることが分かりますが、医学部では、進学希望自体が
少ないこととも関連すると考えられます。工学部、農学部では進学希望者が多く、就職／進学を選
択する時期も遅くなる傾向があるようです。

法学部では、他学部と比べ2年生の時期に決める学生が多いですが（1年生の時期とほぼ同数）、
これは、次項目にある希望分野（公務員）と関連すると推察されます。

〈図 61〉 問 34 就職しようと考え始めたのはいつ頃ですか。



(3) 希望する分野

各学部における希望する分野と、それぞれの専門性との隔たりは見られない。

教育学部は教育関係、法学部は公務員、医学部は保健・衛生・医療関係と、それぞれ本来の専門分野に希望が集中しています。そのため全体でも、これらの割合が多くなっています。

経済学部は商社・金融関係、販売・サービス関係、工学部は建設・機械関係、情報・通信関係、農学部は農林・水産関係、食品・化学関係が多く、これらの学部も、やはりそれぞれの特徴に合った分野への就職を希望しています。

〈図 62〉 問 35 希望する分野は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



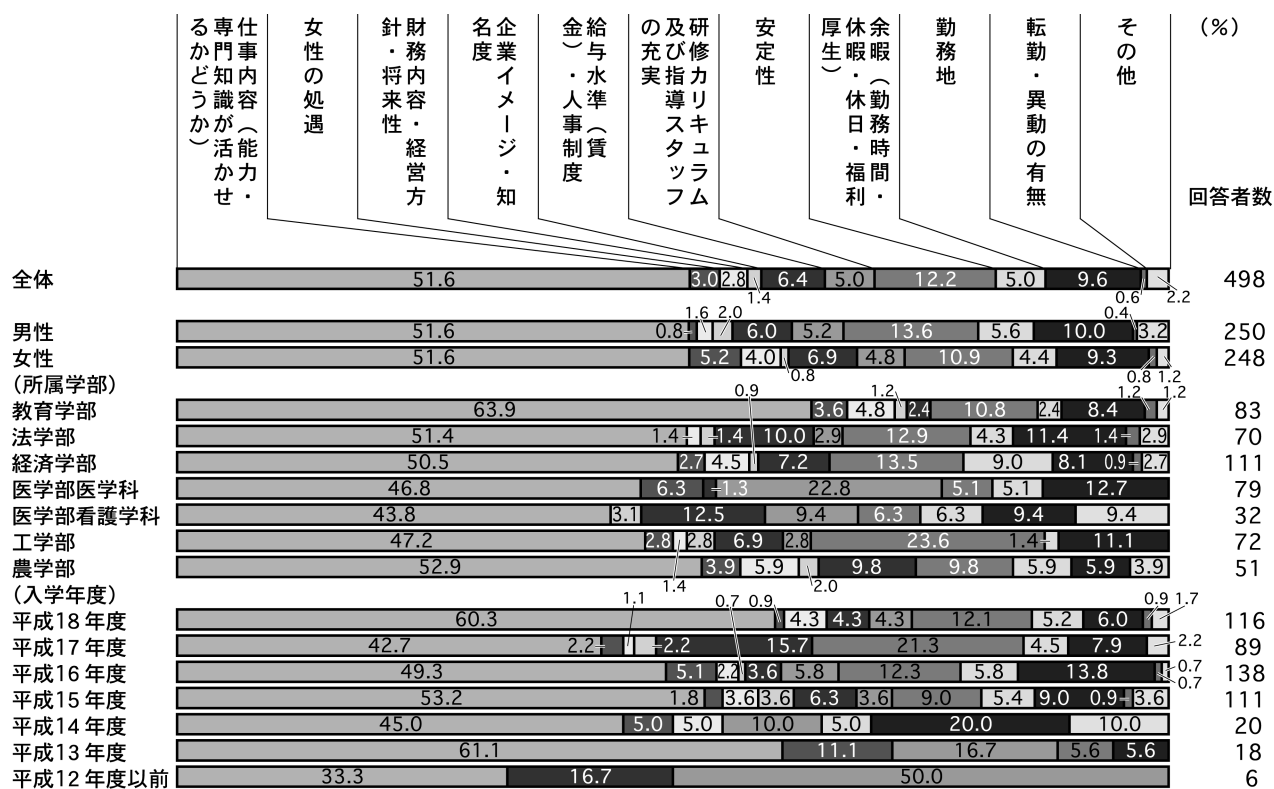
(4) 職業選定で重視すること

半数の学生が、仕事内容を重視している。

半数の学生が、“仕事内容”で就職先を選んでいます。例年、次に多いのが“安定性”ですが、これを選ぶ回答者は、減少傾向にあるようです。安定性の判断が難しくなったことを反映しているものと思われます。

他に、“給与水準・人事制度”、“勤務地”が重要視されています。医学部では、“研修カリキュラム及び指導スタッフの充実”を挙げる学生が多いことが、特徴となっています。

〈図 63〉 問 36 職業を決めるに当たって重視することは何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



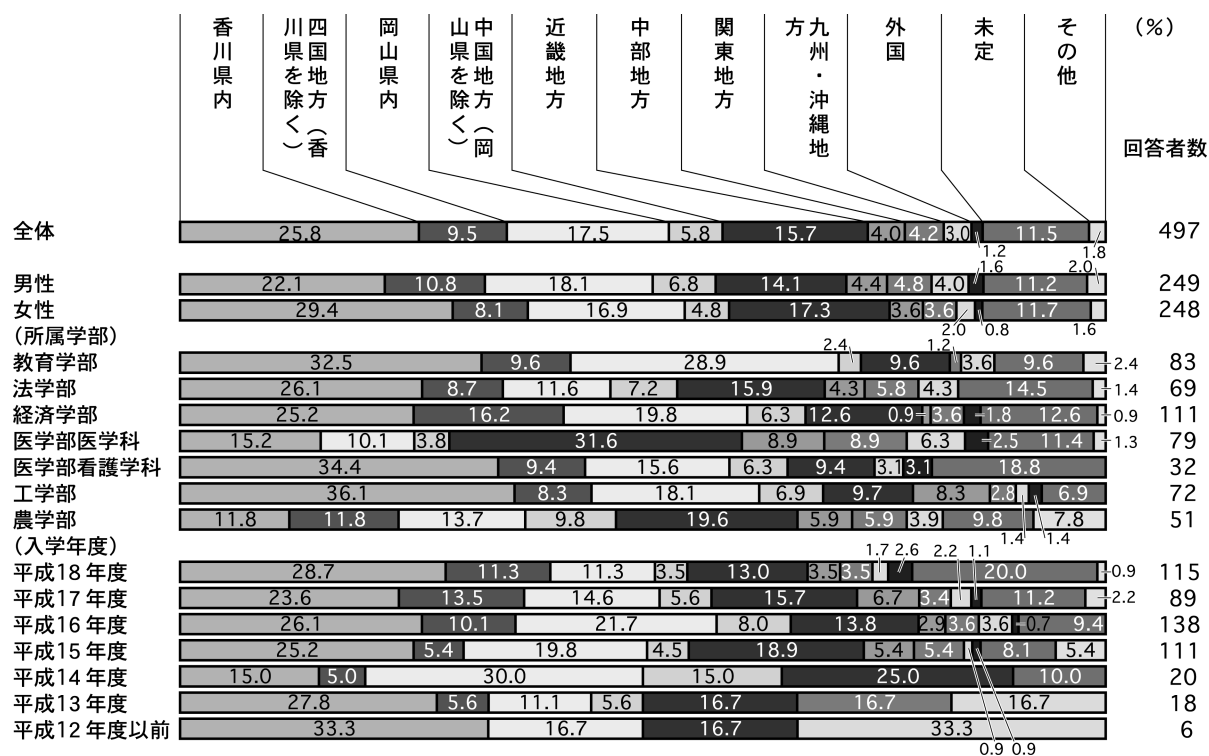
(5) 就職希望地域

半数以上の学生が、地元への就職を希望している。

例年通り、香川県、岡山県を中心とした地元への就職が、半数を超えています。後の設問にもあるように、学生は、就職先を保護者と相談する機会が多く、保護者の希望とも重なっていると考えられます。特に、女子学生は、県内への就職希望の傾向が強いです。

地元の次に多いのは、近畿地方となっています。会社説明会など、遠方への就職活動は金銭面で学生の負担となり、これも、就職地域の希望に影響しているようです。

〈図 64〉 問 37 どの地域を希望しますか。次のうちから一つ選んで教えてください。



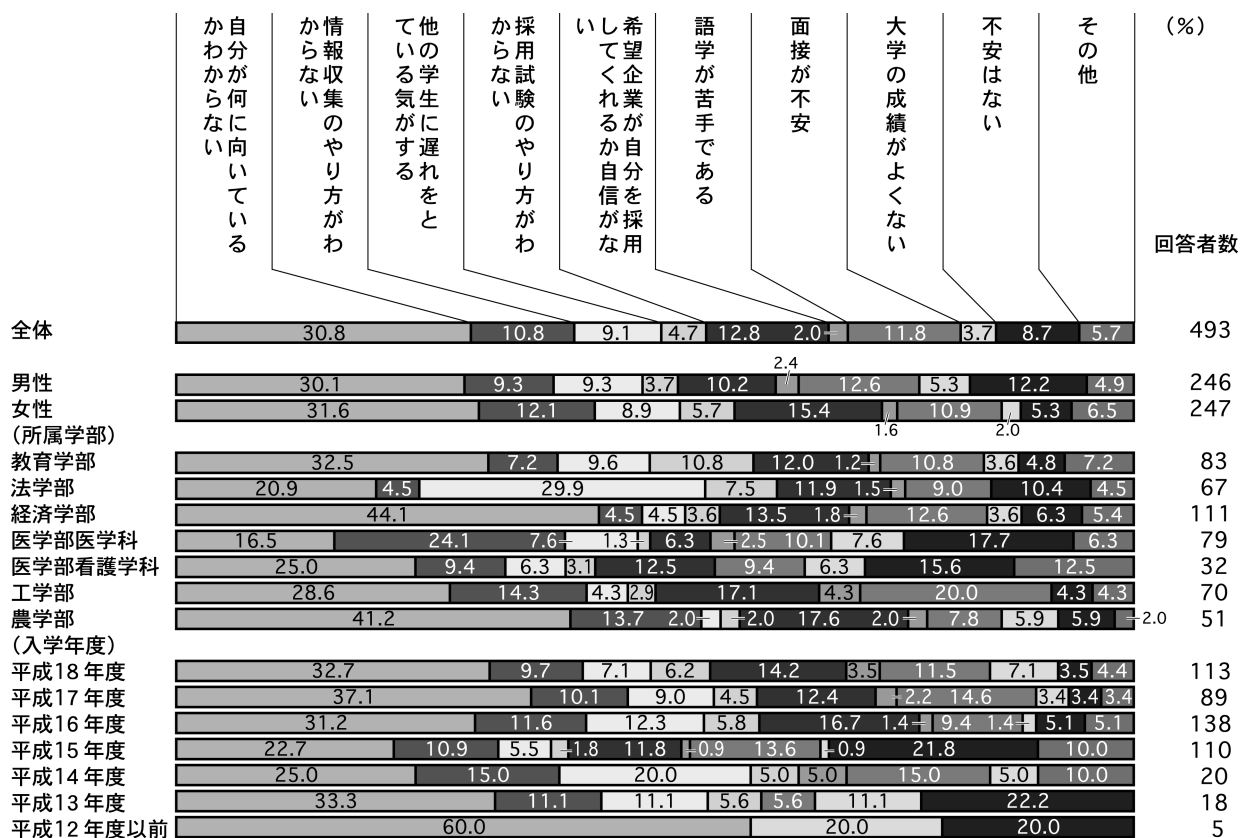
(6) 就職活動で不安なこと

3割以上の学生が、自分の適性に関する不安感を抱いている。

“何に向いているかわからない”、“採用してくれるか自信がない”、“面接が不安”という回答がやはり多いです。向き不向きに対する悩みは、就職分野が比較的是っきりしている学部においても見られることから、自己の能力に関する悩みも含まれることが伺えます。

教育学部や法学部では、教員採用試験や公務員試験など、試験対策に対する不安やあせりも見受けられます。“情報収集のやり方がわからない”という回答が少なくないのは、情報が多すぎるのが原因でしょうか。

〈図 65〉 問 38 就職活動に関して、不安に思っていることは何ですか。次のうちから一つ選んで答えてください。



(7) 就職について相談した相手

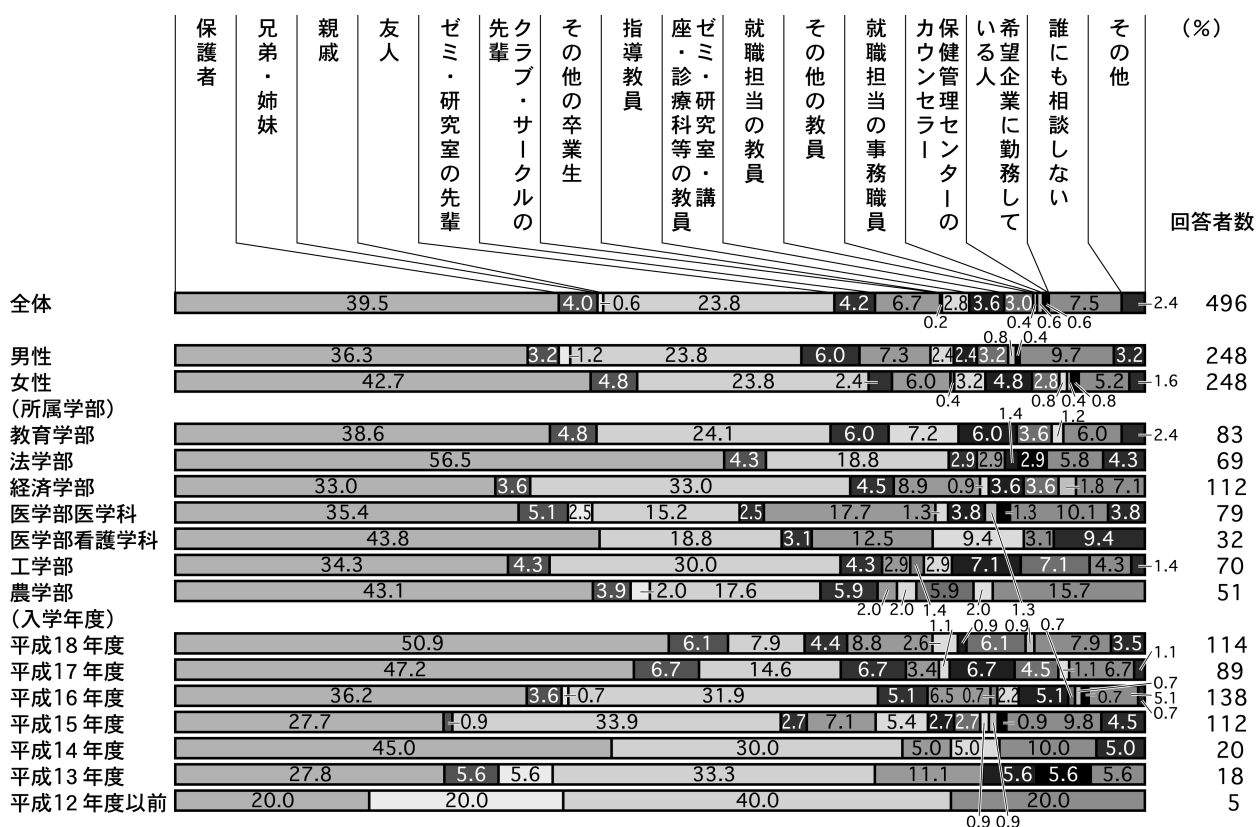
相談相手は、4割が保護者、3割強が友人、先輩となっている。

保護者と相談する学生が4割と多く、就職先選定への保護者の影響は、大きいと推察されます。次いで、相談相手として多いのは友人で、経済学部と工学部では3割に達します。医学部では、クラブ・サークルの先輩も多いのが特徴で、課外活動が貴重な情報源となっているようです。

一方、就職担当やゼミ、研究室等の教職員への相談があまり多くないことは、インターネットの普及や大学推薦をあまり利用しないことと関係があると思われます。

〈図 66〉 問 39 就職について誰に相談しましたか。また、誰に相談するつもりですか。

次のうちから一つ選んで教えてください。



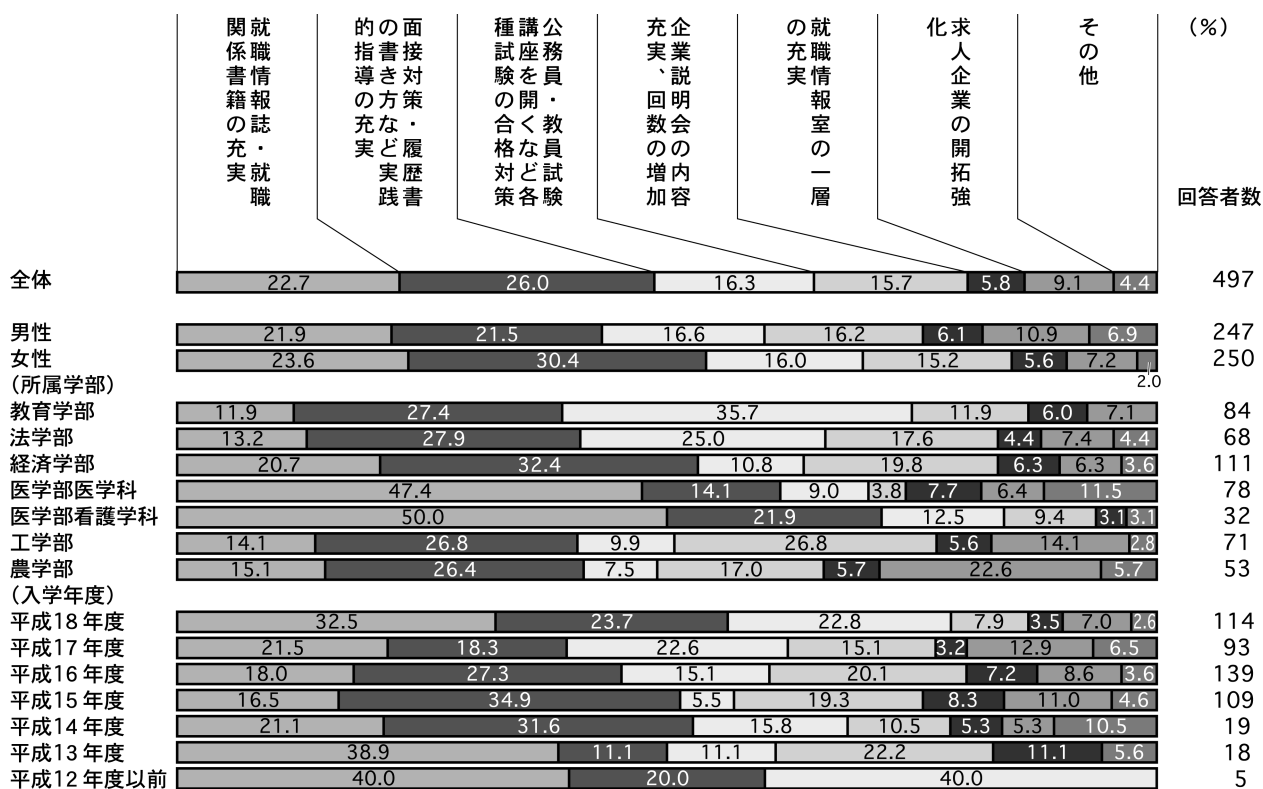
(8) 就職に関する大学への要望

面接対策、試験対策などの、より具体的な指導を要望している。

例年、面接対策、実践的指導の充実への要望が多くなっています。基礎学力はさることながら、コミュニケーション能力を重視している企業等が多いことと関連すると考えられます。

各学部別では、それぞれの特徴が現れています。教育学部、法学部では、教員試験や公務員試験への合格対策、工学部では、企業説明会への要望が多くなっています。医学部では、情報誌、書籍の充実が5割程度で、最も要望されています。

〈図 67〉 問 40 就職に関する大学への要望について、次のうちから一つ選んで答えてください。

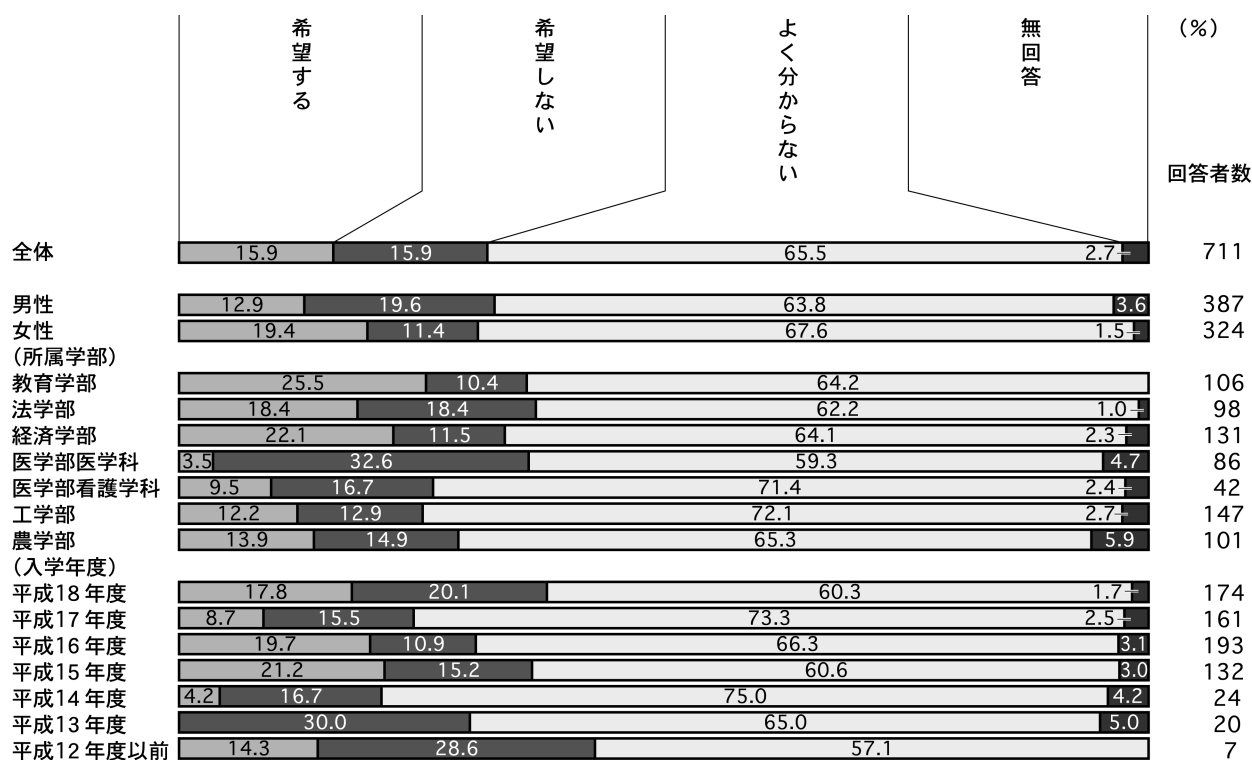


(9) 就職・職業に関する授業科目の開設

6割以上がよく分からないと回答している。

就職・職業に関する授業科目の開設については、よく分からないという回答がほとんどです。その中で、文系の教育学部、法学部、経済学部では、比較的希望する学生が多いようです。医学部では、逆に希望しない学生の方が多くなっています。

〈図 68〉 問 41 現在、就職・職業に関する科目として、1年生を対象とした特別主題科目「キャリア・デザイン」を開講しています。あなたは、このほかにも、こうした就職・職業に関する授業科目を開設することを希望しますか。



5. 学生のキャリア意識

(1) 学生のキャリア意識

1年生は具体的なレベルでの話を除いて、総じて高いキャリア意識を持っている。
多くの項目では、1年次の値が2年次、3年次で落ち込み、4年次に大きく増加している。

学生のキャリア意識は、在学中にどのように変化しているのでしょうか。ここでは、入学年度を手がかりに、平成18年度入学生を1年生、平成17年度入学生を2年生、平成16年度入学生を3年生、平成15年度入学生を4年生と仮定し、在学中の経年変化を見てみることにします。

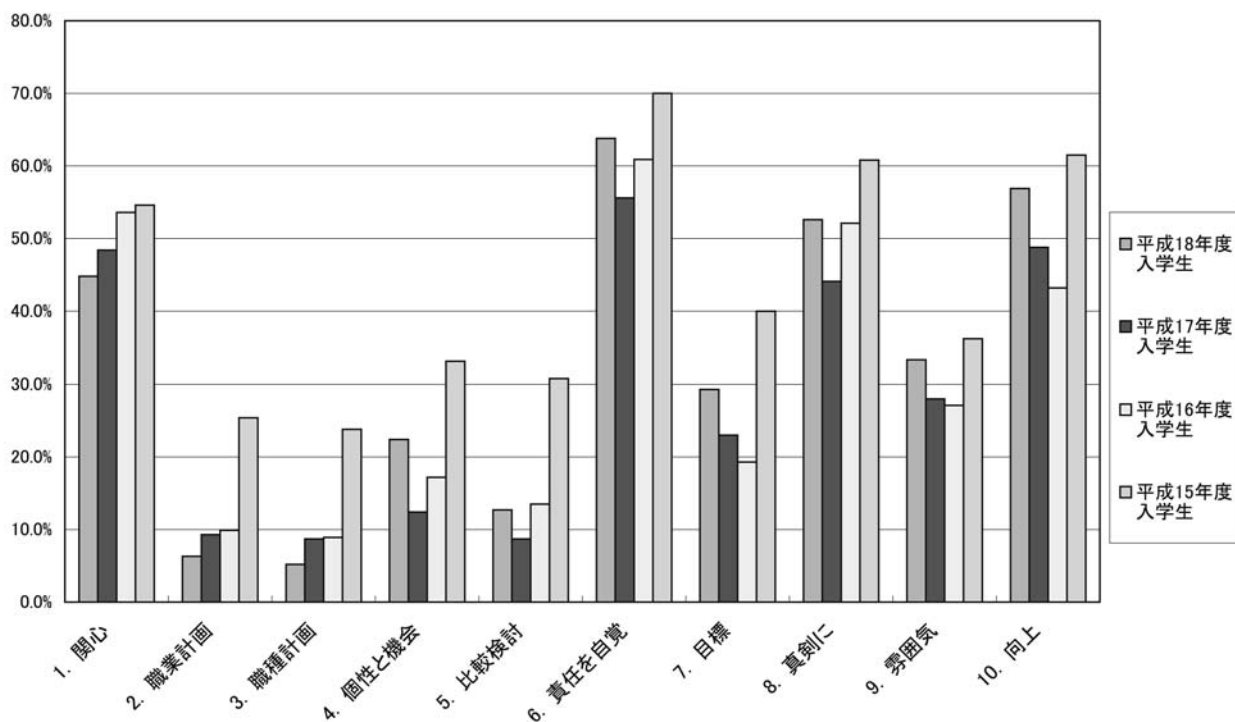
1年生において、「よく当てはまる」との回答が最も多かった問いは、「職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う」(63.8%)であり、これに、「職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい」(56.9%)、「職業選択や就職は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている」(52.6%)、「将来の職業や就職について、とても関心を持っている」(44.8%)が続いています。

一方、「よく当てはまる」との回答が最も少なかった問いは、「希望する職種(事務職・営業職・専門職・研究職等)に就くための具体的な計画を立てている」(5.2%)であり、これに、「希望する職業に就くための具体的な計画を立てている」(6.3%)、「将来の職業や就職先について、いろいろ比較して検討している」(12.7%)が続いています。

在学中の経年変化を見てみると、大きく次の2つのタイプがあることが分かります。すなわち、1年次から4年次にかけて値が増加していくタイプと、1年次の値が、2年次、3年次で落ち込み、4年次に大きく増加するタイプの2つです。

前者に当たるのが、「将来の職業や就職について、とても関心を持っている」、「希望する職種(事務職・営業職・専門職・研究職等)に就くための具体的な計画を立てている」、「希望する職業に就くための具体的な計画を立てている」です。特に、後の2項目については、4年次に値を大きく伸ばしています。残りの項目は、後者のタイプに属し、その多くが2年次で、値がそこを打った後に、3年次には回復基調を示しています。しかし、「どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標を持っている」や「職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい」といった項目については、3年次まで値が減少し、4年次に値が大きく増加しています。就職活動を目前に控え、特にこういった面でのキャリア意識が、揺らぎやすいのかもしれませんが。

〈図 69〉 問 43 キャリア意識に関する以下の質問項目は、現在のあなたにどの程度当てはまりますか。
 それぞれの項目について、当てはまるものを選んでください。
 (「よく当てはまる」の回答について集計)



| | | 平成 18 年度 入学生 | 平成 17 年度 入学生 | 平成 16 年度 入学生 | 平成 15 年度 入学生 | 平成 14 年度 入学生 | 平成 13 年度 入学生 | 平成 12 年度 以前入学生 |
|-------|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| 43-1 | 将来の職業や就職について、とても関心を持っている。 | 44.8% | 48.4% | 53.6% | 54.6% | 70.8% | 65.0% | 42.9% |
| 43-2 | 希望する職業に就くための具体的な計画を立てている。 | 6.3% | 9.3% | 9.9% | 25.4% | 25.0% | 60.0% | 28.6% |
| 43-3 | 希望する職種（事務職・営業職・専門職・研究職等）に就くための具体的な計画を立てている。 | 5.2% | 8.7% | 8.9% | 23.8% | 25.0% | 50.0% | 28.6% |
| 43-4 | 職業選択や就職は、自分の個性と就職機会の両面から十分考えている。 | 22.4% | 12.4% | 17.2% | 33.1% | 37.5% | 47.4% | 28.6% |
| 43-5 | 将来の職業や就職先について、いろいろ比較して検討している。 | 12.7% | 8.7% | 13.5% | 30.8% | 37.5% | 57.9% | 42.9% |
| 43-6 | 職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う。 | 63.8% | 55.6% | 60.9% | 70.0% | 75.0% | 65.0% | 57.1% |
| 43-7 | どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標を持っている。 | 29.3% | 23.0% | 19.3% | 40.0% | 50.0% | 60.0% | 28.6% |
| 43-8 | 職業選択や就職は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。 | 52.6% | 44.1% | 52.1% | 60.8% | 66.7% | 65.0% | 42.9% |
| 43-9 | 職業の選択・決定では、周囲の雰囲気に流されることはない。 | 33.3% | 28.0% | 27.1% | 36.2% | 29.2% | 40.0% | 42.9% |
| 43-10 | 職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい。 | 56.9% | 48.8% | 43.2% | 61.5% | 75.0% | 55.0% | 57.1% |

(2) 現時点での卒業後の進路

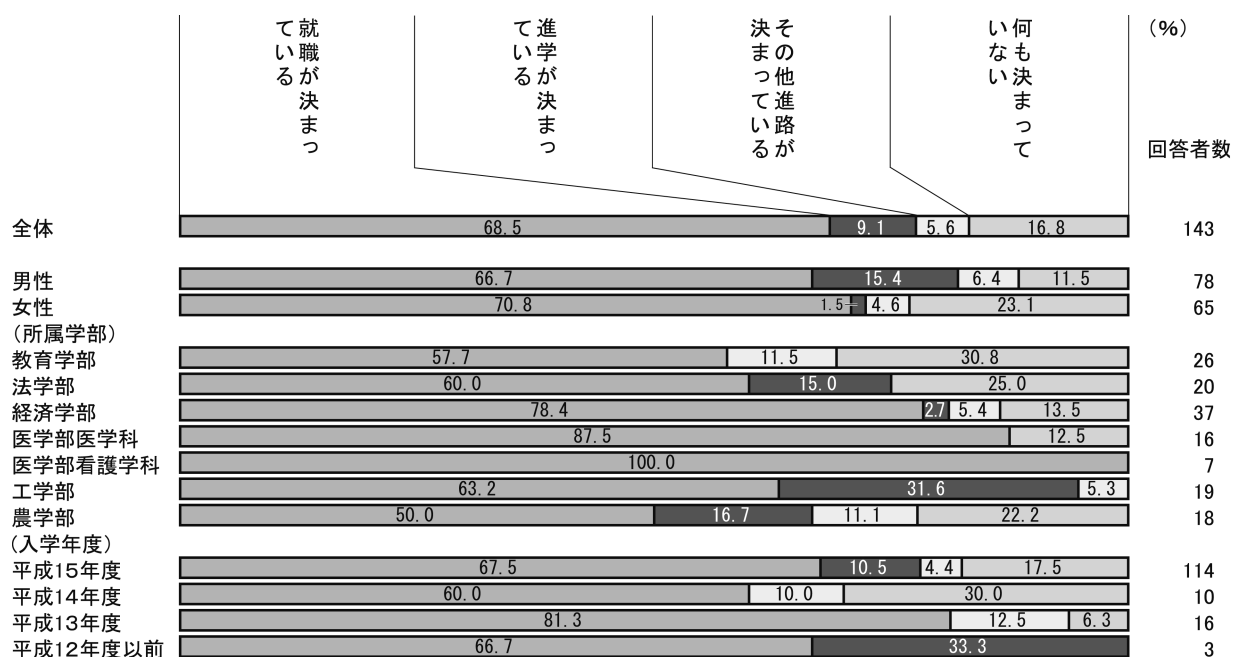
就職が決まっている学生は約7割で、進学が決まっている学生は約1割。
 16.7%の学生については、卒業後の進路が決まっていない。
 卒業後の進路が決まっていない学生は、教育学部、法学部、農学部が多い。

就職が決まっている学生は全体で68.5%、進学が決まっている学生は9.1%であり、これに、その他進路が決まっている学生の5.6%を加えると、約83.2%の学生が、調査時点で何らかの進路が決まっており、16.8%の学生については、卒業後の進路が決まっていないことが分かります。

男女別に見ると、就職が決まっているのは、男性(66.7%)よりも女性(70.8%)の方がやや多く、一方の進学に関しては、男性の15.4%に対し、女性は1.5%に過ぎません。その他進路が決まっている学生を含めても、卒業後の進路が何も決まっていない学生は、男性の11.5%に対し、女性は23.1%と多いことが分かります。

学部別に見ると、就職が決まっている学生が最も多いのは、医学部看護学科(100.0%)で、これに、医学部医学科の87.5%、経済学部の78.4%が続いています。一方、進学が決まっている学生は、絶対数は少ないものの、工学部(31.6%)、農学部(16.7%)、法学部(15.0%)では相対的に高い値を示しています。卒業後の進路が何も決まっていない学生が最も多いのは、教育学部(30.8%)であり、これに、法学部(25.0%)、農学部(22.2%)が続いています。

〈図70〉 問44 現在4年生(医学部医学科の学生は6年生)の方におたずねします。現時点での卒業後の進路について、当てはまるものを一つ選んで教えてください。



6. 学生の相談体制・その他

(1) 学生相談窓口その他の周知状況

相談窓口の存在については、半数以上の学生が知っています。しかし、ハラスメント相談窓口については、3割程度の学生しか知りません。

学生相談窓口や情報を提供する窓口があることの周知度ですが、学生生活支援グループの「なんでも相談窓口」については、全体の学生のほぼ5割（49.2％）が知っており、特に、保健管理センターの健康相談（カウンセリング）窓口については、約7割（70.6％）の学生が知っていると考えています。しかし、ハラスメント相談窓口については、知っている学生は3割程度（28.8％）しかいないようで、低い数値を示しています。また、各学部の特徴を見てみると、就職情報室の就職相談について、医学部医学科が低い周知度（8.1％）を示しています。また、キャンパスアドバイザー又はクラス担任等については、法学部における周知度は1割弱（9.2％）しかありません。

〈図 71〉 問 45 本学には、次のような学生相談窓口や情報を提供する窓口が設置されています。次のうちから、あなたが知っているものを全て選んで教えてください。



(2) あったら良いと思う相談窓口

問 46 では、あったら良いと思う相談窓口について、具体的に書いてもらいました。主な内容は、以下のとおりです。また、既存の窓口の周知徹底をもっと行うべきであるとの意見もかなりありました。

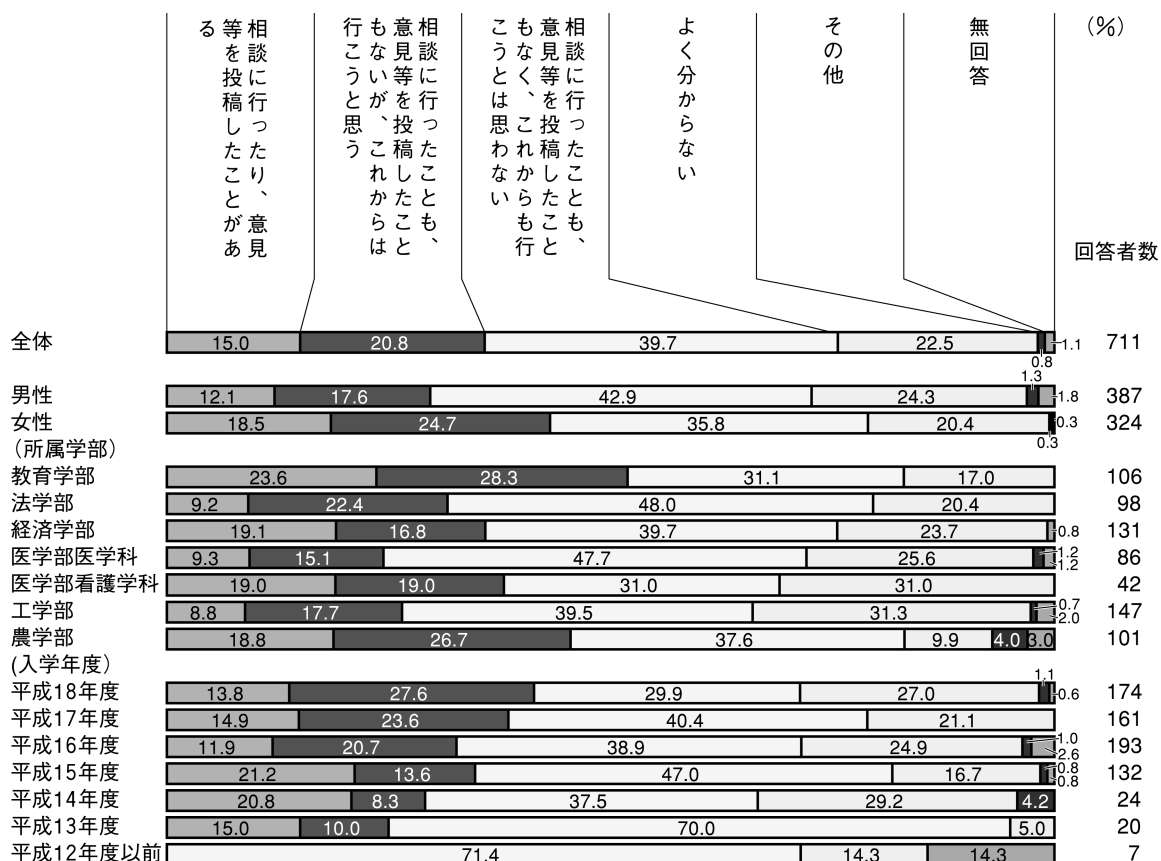
- ① 履修専門の窓口、ボランティア等学外活動の窓口
- ② 公務員試験対策窓口
- ③ ファイナンシャルプランナーによる 1 人暮らしの家計を上手くやりくりする方法を教えてくださいの相談窓口
- ④ 上級生が下級生の質問に答える「先輩相談窓口」
- ⑤ 学生と研究室・先生との交流窓口等

(3) 相談窓口への相談状況・意見投稿

4割近い学生が相談に行ったことがなく、今後行く気はありません。

相談に行ったり、意見等を投稿したことがあると答えた学生は、全体の15.0%しかいません。また、まだ相談に行っても、意見等を投稿したこともないが、これからは行こうと思うと答えた学生は約2割(20.8%)です。しかし、4割近い(39.7%)学生が、相談に行っても、意見等を投稿したこともなく、これからは行こうとは思わないと回答しています。各学部別に見てみると、法学部(9.2%)、医学部医学科(9.3%)では、相談に行ったり、意見等を投稿したことがあると答えた学生は、約1割しかいません。また、法学部(48.0%)、医学部医学科(47.7%)の5割近い学生が、相談に行っても、意見等を投稿したこともなく、これからは行こうとは思わないと回答しています。以上のように、特に、法学部と医学部医学科が、顕著な数値を示しています。

〈図72〉 問47 あなたは、今までに問45の相談窓口へ相談に行ったり、意見等を投稿したことがありますか。また、今後トラブル等があった場合に、相談に行こうと思いませんか。

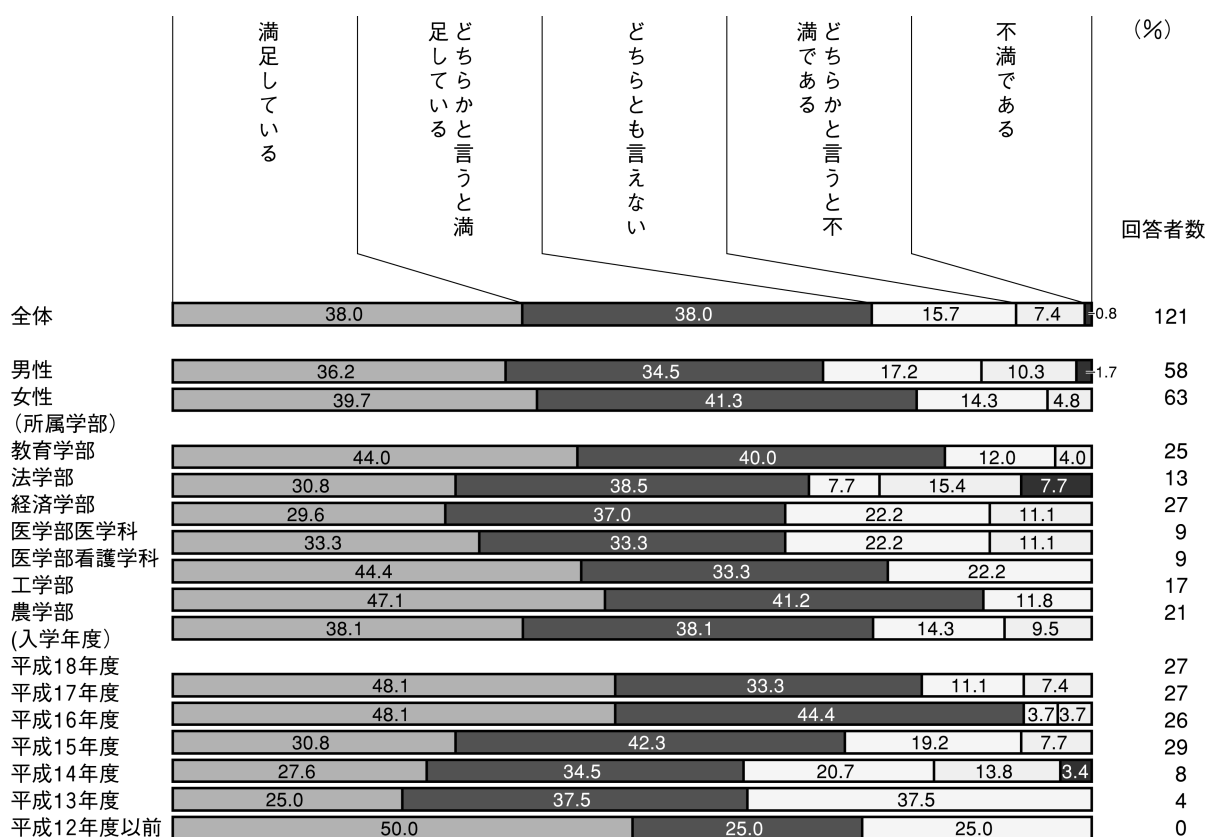


(4) 相談窓口の対応に関する満足度

相談窓口の対応に、学生はおおむね満足しています。

相談窓口の対応に関しては、全体の4割近い(38.0%)学生が、満足していると回答しています。また、どちらかと言うと満足していると答えた学生も、4割近くいます(38.0%)。不満であると回答した学生は、0.8%しかいません。また、どちらかと言うと不満であると答えた学生は7.4%ですが、男性が10.3%、女性が4.8%と、顕著な男女差を示しています。

〈図 73〉 問 48 問-47で「1」と回答した人におたずねします。相談窓口の対応はいかがでしたか。



(5) 相談に行かなかった理由

問 47 では、相談窓口へ相談に行ったり、意見等を投稿したことがあるかどうかを聞きました。問 49 では、問 47 において、「2. 相談に行ったことも、意見等を投稿したこともないが、これからは行こうと思う」、「3. 相談に行ったことも、意見等を投稿したこともなく、これからは行こうとは思わない」と回答した人に、「相談に行かなかった理由又は今後も行こうと思わない理由」を、具体的に書いてもらいました。主な内容は、以下のとおりです。また、特に相談することがない旨の回答、家族や友人に相談して問題を解決している等の回答も、多数ありました。

- ① 対応がぞんざいなところもあり、あまりあてにならないと思っている。
- ② 相談したいことが特になかった。また、窓口があることは知っているが、そこに行けば何ができるかなどの詳細が不明確なため、利用しようと思わなかった。
- ③ 悩みは大抵家族に聞いてもらっているし、悩みの大部分はささいなことなので、自分で解決するようにしているから。
- ④ 普段、学務の対応が冷たいので、相談に行っても親身になって考えてくれなさそうだから。「相談」という名だけで、実際は、事務的対応で役立ちそうになさそう。

(6) 相談窓口に対する不満

問 50 では、相談窓口に対する満足度を聞いた問 48 において、「4. どちらかと言うと不満である」又は「5. 不満である」と回答した人に、その理由を具体的に書いてもらいました。主な内容は、以下のとおりです。かなり厳しい意見が多数ありました。一日も早く、学生にとって満足いく相談体制の確立が望まれるところです。

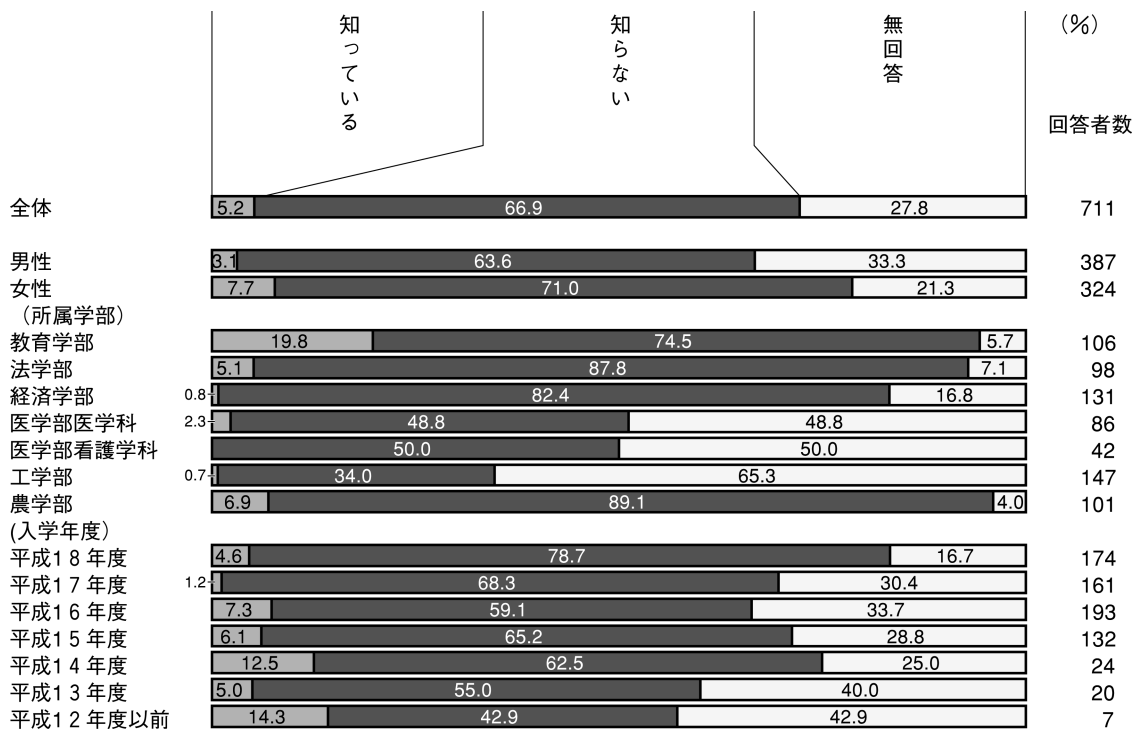
- ① 大学の職員は適当で、信用できないと思っているので、相談の内容で決めるつもりのため。必要あれば行きます。
- ② 対応があまり良くなく、カチンとくることを言われた。
- ③ 面接の事で相談に行ったが、抽象論を述べられただけで、具体的なことは分からなかった。
- ④ 以前友人が相談に行った時、対応が悪いと言っていた。

(7) 警備員の携帯電話番号の周知状況

多くの学生は、警備員の緊急連絡用携帯電話の番号を知りません。

本学では、勤務時間外での事故・不審者の侵入等に対応するために、警備員は、緊急連絡用の携帯電話を持っています。その電話番号を知っていると答えた学生は、全体の5.2%に過ぎず、7割近い(66.9%)学生が、知らないと回答しています。学部別に見てみると、教育学部の7割強(74.5%)、経済学部の約8割(82.4%)、法学部(87.8%)と農学部(89.1%)の約9割の学生が、知らないと答えています。警備員の緊急連絡用携帯電話の番号は、ほとんど学生には知られていないようです。

〈図74〉 問51 幸町キャンパス及び三木町農学部キャンパスに主に通学されている方におたずねします。本学では、勤務時間外での事故・不審者の侵入等に対応するために、警備員に緊急連絡用の携帯電話を持たせています。あなたは、警備員の携帯電話番号を知っていますか。

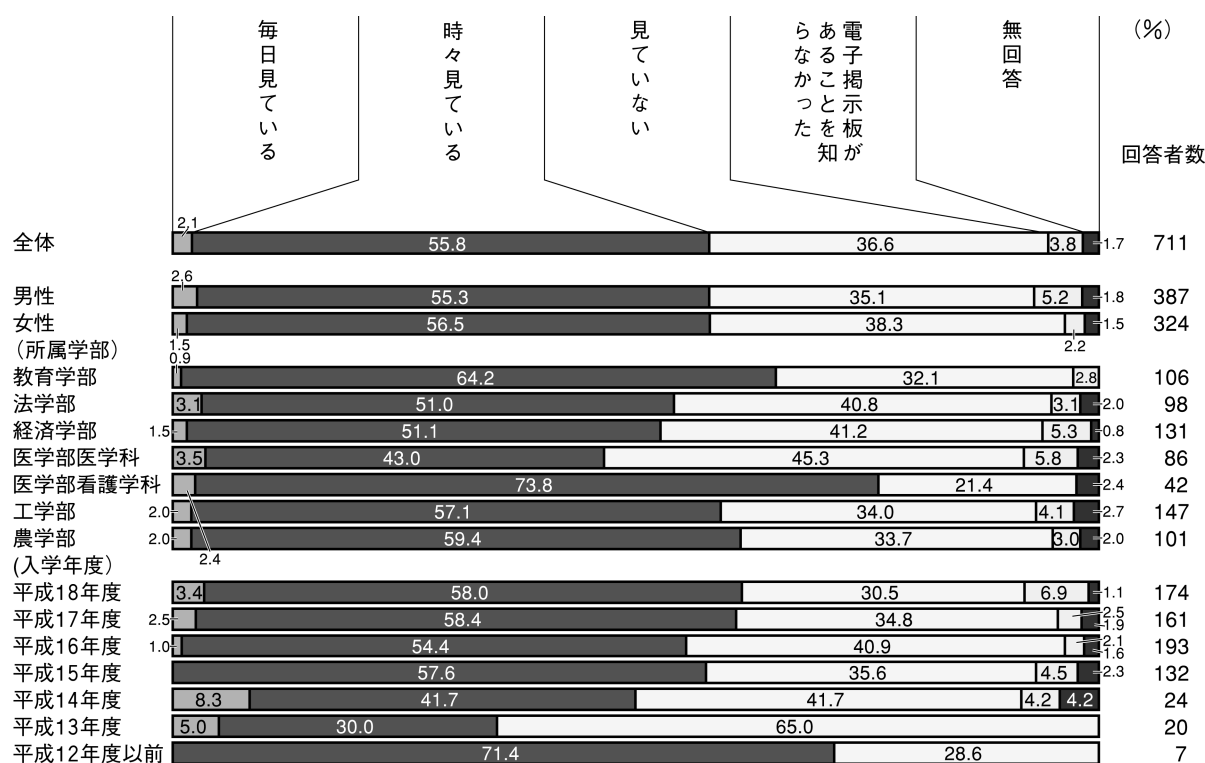


(8) 電子掲示板の情報について

約6割の学生が、電子掲示板の情報を時々見えています。

大学へ来た時に、電子掲示板の情報を見えていますか？という問いに対して、毎日見えていると答えた学生は、全体の2.1%しかいません。時々見えていると答えた学生が、全体の約6割（55.8%）です。また、見ていないと、4割弱（36.6%）の学生が回答しています。学部別に見てみると、医学部看護学科の学生の7割強（73.8%）が、時々見えていると答えており、他の学部比べて、高い数値を示しています。また、同様に、医学部看護学科の学生のうち、見ていないと回答したのは約2割（21.4%）しかおらず、他の学部比べて低い数値を示しています。

〈図 75〉 問 52 (1) あなたは、大学へ来たとき電子掲示板の情報を見えていますか。



(9) 電子掲示板についての希望・要望

問 52 (2) では、電子掲示板についての希望・要望を、具体的に書いてもらいました。具体的な内容は、以下のとおりです。文字を大きくして、見やすい内容にすること。更新をこまめにして、最新の情報を提供すること。設置場所を増やすこと。この3点に、希望・要望の内容は集約されると思われます。また、従来の掲示板との差別化が図られていないので意味がない旨の意見も、多数ありました。

- ① 文字を大きくして見やすくしてほしい。
- ② 見たい情報がなかなか出ないので、タッチパネル式の方が良いと思う。
- ③ 学務前の掲示板と同じ内容の情報（特に休講情報）を提示してほしい。あと、情報の更新が遅い時があるので、早めに更新してほしい。
- ④ 電子掲示板は、自分の知りたい情報を見るのに、その画面になるまで少し待たなければならないので、掲示板を見た方が早いと思います。
- ⑤ 設置場所を増やしてほしい。

(10) 休講掲示の携帯電話での確認

多くの学生は、休講掲示を携帯電話で確認できる事実を知りません。

休講掲示を携帯電話でも確認できることを知っているとは回答した学生は、全体の25.2%しかいません。そのうち、男性は19.6%、女性は31.8%と男女差を示しており、女子学生の方が確認できる事実を知っているようです。しかし、全体の約7割(73.4%)の学生が知らないとは回答しており、学部別に見ても、教育学部の約8割(78.7%)、法学部(72.7%)と経済学部(67.9%)と医学部医学科(69.7%)の約7割、工学部の約8割5分(85.7%)、医学部看護学科(87.5%)と工学部(90.0%)の約9割の学生が、携帯電話で休講掲示を確認できる事実を知らないようです。つまり、多くの学生は、休講掲示を携帯電話で確認できる事実を知らないことになります。

〈図 76〉 問 52 (3) あなたは、休講掲示板を携帯電話でも確認できることを知っていますか。

